

第 28 回「東日本大震災から 9 年」

震災当日、テレビに映る川をすごい勢いで遡上している「まっ黒」なモノの正体がすぐには分かりませんでした。それが未曾有の大津波のせいであることに戦慄を覚えました。

この大津波については、各方面から報道されたので、私は作家の吉村昭氏の言葉を紹介します。

「海底地震の頻発する場所を沖にひかえ、しかも南米大陸の地震津波の余波を受ける位置にある三陸沿岸は、リアス式海岸という津波を受けるのに最も適した地形をしていて、本質的に津波の最大災害地としての条件を十分すぎるほど、備えているといい。津波は、今後も三陸沿岸を襲い、その都度災害をあたえるに違いない」

吉村氏は、「海の壁 三陸沿岸大津波（昭和 45 年 6 月刊）」にて、警鐘を鳴らしていたのです。

翻って、松崎町の現状を見ると、震災に対する意識が薄れてきている気がします。震災は必ず来るといふ適正な警戒心は持ち続ける必要があると思います。

私が皆さんにお願いしたいことは、①グラッときたら「どこの高台にいかにか早く逃げるか」を日頃から決めておくこと、②とにかく 3 日間だけは「何としても生き抜く」という強い気持ちを持つこと。生きていれば、後は必ず国・県・町が助けてくれます。

町では、昨年からは住民の皆さんや関係機関の参加による協議会やワークショップで話し合いを重ね、津波防災地域づくり推進計画を策定し、今後、大きな減災効果が見込まれる水門・防潮堤の整備や自主防災組織との連携強化など、ハード・ソフトの施策を柔軟に組み合わせて対応してまいります。